

## 2019年度 学位記・修了証書授与式 学長式辞

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学長としては非常に残念ですが、学位記・修了証書授与式を中止やむなきに至りました。皆さんに直接お祝いの言葉を伝えることはできませんが、書面にてお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さん、大学院を修了される皆さん、卒業・修了おめでとうございます。実り豊かな学生生活を送られたことと、お慶び申し上げます。

現在、私たちを取り巻く社会の状況は急激に変化し、先行き不透明な中で、どのように対応していくかが問われています。大学についても同様に、如何に社会に貢献出来るかが問われ、学部を超えた教育研究分野の再編成、社会人など多様な学生の受入れ、大学間の連携や研究機関、産業界との連携・協力など、様々な取り組みが求められています。「社会の公器」として、教育の質の担保、社会の変化に対応した教育・研究の高度化が喫緊の課題となっています。それらの課題を解決する為には、不断に外部の意見を取り入れ、廉直に社会への説明責任を果たして行く事が重要です。大学にとって、教員、職員、学生、同窓生は車の四輪です。その中で同窓生は大学に最も近い社会の利害関係者であり、風通しの良い関係を維持していくことは、最重要課題となっています。新しく同窓生となられる皆さんの存在は極めて重要です。忌憚のない意見を期待しています。

東京理科大学は、「学問の自由」を社会から負託され、科学技術研究を推進し、次世代に引き継ぐためのリーダーとなる人材を育てる場です。教育研究活動の結果を社会に還元し、社会の負託に応えることが重要な責務です。学術は過去の膨大な研究成果の上に成り立っており、誠実性は、研究遂行上最も重要です。皆さんは学位論文をまとめ、論文として公表し、本日の卒業・修了に到達されました。地道な作業を粘り強くこなし、人類社会に貢献されたことに、敬意を表したいと思います。

ここで、東京理科大学の歴史を振り返ってみましょう。1881年に東京物理学講習所、後の東京物理学校として始まりました。東京大学理学部物理学科の卒業生たち21名は、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を建学の精神として、民主的に講習所を立ち上げました。初代校長の寺尾寿は、日本における天文学の基礎を固めた人物でもありました。卒業生たちは様々な分野で活躍し、日本が近代国家へと発展して行く一翼を担いました。

戦後、東京物理学校は1949年の大学制度の改革により東京理科大学となりました。鉄の神様と呼ばれ、東北帝国大学総長を務めた本多光太郎が初代学長に就任し、「学問のある所に技術は育つ、

技術のある所に産業は発展する、産業は学問の道場である」と喝破して、東京理科大学を研究レベルの高い大学に発展させるとともに、社会に役立つ大学を目指し、産学連携の先駆けとなりました。卒業生たちは、教育者、技術者、研究者として、日本はもとより、世界で活躍し、科学技術の発展に大いに貢献しました。日本も急速な経済成長を遂げ、世界で最も進んだ国の一つに発展しました。

しかし、現在、世界は多くの解決すべき社会的課題を抱えています。新たな感染症、地球環境問題、産業構造の急激な変化など、国内のみならず世界的な問題は複雑化し、深刻さは増すばかりです。2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標：SDGs」を思い起こして下さい。SDGsには、我々が認識すべき社会的課題と目標が示されていますが、明確な解決方法が示されている訳ではありません。社会に出て活躍される皆さんへの期待は大きいと思います。

大学は自律した個人の集団です。研究者は、主体的、自律的判断に基づいて行動しています。この自律性が学術の発展には不可欠であることを、歴史の教訓から学んでいます。しかし、各専門分野に安住しては、学術的発展に対して大きな力にはなれません。我々が直面する様々な課題を解決することはできません。大学という多様な組織体は、自律分散しているだけでなく、協調して活動できる仕組みを持つ必要があります。そうした活動を有効にするのは、明確な目標の設定であり、それを支える広い意味の教養です。深い教養に裏打ちされた知性が必要ということです。分野を越えた協調は、若く柔軟な皆さんのほうがやり易いと思います。本学の「実力主義」で育まれた皆さんが、自ら考え、自ら行動を起こすことで、大学をそして社会を取り巻く困難な状況を打破してくれることを望みます。

本日、皆さんは、学部を卒業し、または大学院を修了し、それぞれの学位を取得されますが、知の探求は終わった訳ではありません。皆さんの学位記は、東京理科大学として、今後も、皆さんと協力し、世界が抱える課題を解決して行こうという約束の証です。皆さんの長い人生の中で、新しい挑戦の準備をしたいと思う時が、必ず来るでしょう。その時には、是非、理科大に戻って来て下さい。我々は、常に皆さんの活動を支援し続けることを約束します。

東京理科大学は、現在の構成員だけの組織ではありません。未来の学生にとり、より良い教育と研究が行い続けられる場とするため、同窓生としてご協力を賜りますようお願いするとともに、皆さんの益々の活躍を祈念して、式辞とします。

2020年3月17日

東京理科大学 学長 松本 洋一郎